婦人衛生雜誌

大正九年四月十五日發行

第三百五十二號

婦人衛生雜誌

第三百五十二號目次

謹告

來四月十九日（第三月曜日）午後二時より本郷區湯島東京高等女學校附屬作樂館に於て本會例會相開き左の講話有之候間萬障御繰合せ御來會被下度候

衛生講話　醫學博士　片山國嘉君

大正九年四月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや知識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんことを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んことといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずといへども衣食住の改善育兒及看病法等の知きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるもの丶如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尙之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐこととしかり

明治二十年十一月　首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

(明治三十二年十二月改正)

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の知識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す。入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金貳拾五圓以上特別會員は一ヶ月金五拾錢以上、通常會員は一ヶ月金參拾錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、理事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長理事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は理事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し理事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る　理事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長理事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑託し會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會會場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得(但衣服は總て質素たるべき事)●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件議定すること●第二十一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第二十二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第二十三條　會計の收支は總て會計擔任の理事の檢印を要するものとす●第二十四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●二十五條　地方に於て本會會員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第二十六條　本會會員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第二十七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第二十八條　本會の雜誌は支會に同送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし　支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第二十九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし●雜件●第三十條　本會は隔月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第三十一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を簿册に登錄し尙本會雜誌を以て報告すべし●第三十二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送致として別に返信料を添へらるべし(郵券送一割增)●第三十三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所所在の郵便局(本郷區駒込千駄木町郵便取扱所宛)振出しあるべし●第三十四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議員會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市本郷區駒込千駄木町五十番地　私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌第三百五十二號
（大正九年四月十五日發行）

講演

尊重すべき婦人の保守性

空々道人

これは空々道人の空語であると申されますが、時にこつて御婦人方の御耳に入れても可さゝうなものでありますから、いつもの衛生講話に代へて、今回はこれを本欄に掲げることゝ致しました。（編者）

いや、記者對手の即席獨演は恐入る、殊に貴婦人方の御耳に入れる、婦人の衛生に關係のある談などは、何處から何處まで愚老に取つては不向である、併し折角のことであるから、兎に角婦人と云ふ事だけを頭に置いて、近頃の世間の有様に就て感ずることを少しく述べて見よう、但しそれが何かの役に立つかどうかは分らぬ、題の如きは然るべく適當に願ひ度い。

…………………………

凡そ生物と云ふても、極下等なものには男女性の區別がない、漸次進化の程度が進むに從つて男性と女性との區別が現はれ、哺乳動物に至つて益々その相異が著しく且つ顯かになり、人類に至つてその差別が最も顯著になつて來て居る。これは全く自然の然らしむる所で、決して人爲の業ではない。これに由て觀れば、男女の別あるは生物界の中に於て高等の階級に進めるもので、その差別の顯著になるだけ高等の進化階級に進むだものであると云ふことが出來る。更に人間にありては、男子は何處迄も男性の特徴を發揮せんとし、女子は愈々その女性の特徴を顯かにしようと努める。これは裸體生活をして居る

野蠻人の間にも見る所であるが、所謂文明人になると、女子は種々樣々の工夫をして何處から見ても男子と見誤られることのない樣に裝飾をして居る。以上は單に外貌上に就て、男女の別あるは高等の方向に進める一階段であり、その進化文明の進むに從つて益々男女の區別が嚴然となり、努めてその差別を顯かにせんとする事實を述べたのであるが、人間にありては、その起擧動作より、精神上の働きまでも女子は、努めて女性らしき修養を積むで來て居る。これは正に然るべき事で所謂天命は玆にあるのである。

然るに近來婦人、殊に多少教育ある婦人の間に、萬事男子と同樣ならんことを熱狂的に希望する傾向を生じて來たらしい。これには種々複雜なる社會的事情が因をなして居るに相違ないが、その表面上の理由は如何にあらうとも、天命に對する反逆的思想傾向たることは明かである。斯の如き思想の外觀上尤もらしく思はれるのは、唯だ表面だけであつて、その根蒂は甚だ薄弱なものである。從つて斯の如き思想は陽氣のせいで一時ぼや／＼と生えるが、忽ちにして凋萎してしまふのが普通である。若し不幸にして斯の如き思想が多少發展するときには、それだけ自然の復讐を受けることが甚しい、所謂天罰を蒙むるに至るのみである。

抑も女子と男子と同樣ならんことを要求すると云ふ奇怪な思想は何處から湧き出して來たのであらうか。男女同權、最近では婦人參政權、婦人解放などと云ふ語が濫用される。これも正當の意味では誠に尤な次第である、卽ち女子は女子として人間に於て男子と同等の人權を有して居る筈である。又婦人と雖も一國の政事を與かり聞くが至當である。然るに從來婦人は種々の事情の爲に束縛されて女子たる人間の權利が壓抑され、參政權は本より財產の相續權も與へられて居らぬと云ふは不都合な事であるからあらゆる女子の權利をその羈絆から解放せよと云ふのである。これは誠に道理ある要求と思はれる。然

し從來の女子の地位權限も決して男子の暴虐の爲に斯くあつたのではない、これには又相當の理由あつて斯くの如くなり來つたものである。けれども百年前、否數十年前と今日とでは、社會の事情が全く異つて來た、且つ女子の智識が一大進步をした。今日の社會の狀態、今日の女子の智識の程度に於て、全然數十年前の女子の地位に甘んぜよと云ふのは無理な話で、これが爲に相當の要求をするのは寧ろ當然の事である。

然るに徒らに要求することのみ多大で、その要求すべき理由、要求せざるべからざる根本の道理を忘れて居る婦人が尠なくない。そこで往々所論が脫線して、反つて世間の嘲りと憎惡とを買ふやうなことになるのである。

西洋あたりの理の分つた婦人達の社會に向つて要求する所は、今述べた通り、女子の智能は數十百年前に比すれば非常の進步をして來て居ることは事實である。然るにその數十百年前の因襲で、今日も尙ほ昔と同樣の地位待遇に置かれて居る事が多い、これでは單に女子の爲めに不都合なるのみならず、社會萬般の事に於て損である。それで今日の女子相當の權利を抑制することなく、今日相當の地位待遇に改めてもらはねばならぬと云ふのである。要するに掛値のない女子の地位、値切られない婦人の權利を保ち度いと云ふのであつて、決して何も彼も男子と同樣にしようと云ふのでは無いらしい。

これは譬が、ちと露骨になるかも知れないが、例へば鷄に就て言ふて見れば、雄鷄は雄鷄として鷄であり、牝鷄は牝鷄として同じく鷄であり、何方が鷄として眞の價値が多いの少いのと云ふ事はない。人間にとつては、牝鷄の方が肉が軟かで、卵を生むで、雛を育てるから牝鷄の方が遙かに値段がよくなつて居る位のものである。然るにどうであらう、若し牝鷄が雄鷄よりも下等な飼料を少しく與へられ、鷄舍も狹い穢い處に押込められて居るのは不當であると云ふて不平を鳴らすならば、これは誠に尤もな次第

であるけれども、吾々牝鷄とても同じく鷄である、吾々とても宜しく冠を著け、尾を長く曳くべきであると言ひ出すならば、既に無理な要求である、併しこれも出來得ることならば大した不都合もないかも知れぬが、若し吾々牝鷄も雄鷄と同じく鬪鷄をしなければならぬ、時をつくらなければならぬ、而して卵を生むことや、雛を育てる事などは廢ようと言ふならば、これは全然勃逆の思想要求と謂ふべきものである。

これと同じく、近頃の新しい女の間には、單に今日の女子相當の地位權利を保たうとする正當の要求から脱線して、冠を著けよう、尾を曳かう、時をつくらう、鬪鷄をやらうと叫く者が多い、これは甚しき謬見で、自分等の爲めに不利を求めるものである。牝鷄が拙劣い時をつくるのは、物笑になるばかりではない、不吉な事として世に忌まれる。鬪鷄をして雄鷄に勝つべき筈がないのである。その天性拙劣な事や、不得意な事を好むで競爭しようとするのは眞に愚なことである。卵を生み、雛を育てることは牝鷄でなければ出來ない、これは確かに天職である、然るにその大切な天職をおろそかにして、天性に悖つた不得手な時をつくる眞似をしたり、鬪鷄を試みるなどは、自分の爲には不利益であり、世の爲めには害を流し仇となるのみであることは明白である。

要するに女子自ら女子の天分の何處にあるかを知らずして、唯世間を眺めるから、何もかも男子のする事は自分も出來る、自分もそれをせねば人間としての估劵が下がると云ふやうに、見當違ひのした恨み妬みをするやうになつて來るのである。これを正道に引戻すのには、何處迄も女子の天性を明かにする必要がある。男子が女子と同樣の事を試みても到底滿足な事が出來るものでない、唯滑稽を演ずる位のことである、これは女子達も能く見て居ることである。これと同じく女子が男子の事を試みて男子以上の成績を擧げると云ふ事は困難な又無理な話である、然るにその不利な事を敢てしようと企てるのは

決して賢明な考ではない。
そこで女性たるもの丶天分は何處にあるかと云へば、古今東西文野を問はず、男は外に働き女は内を守ると云ふ通則は、到底動かすべからざる天則であつて、男子の爲にも女子の爲にも極めて適切な分業で、人間社會の利益である。男は外、女は内、男は取り、女は守る。支那人が乾坤、陰陽と男女の德分を形容したのは誠に適切な形容で、女子は何處迄も陰德、坤德を守つて間違がない、文明が進めば進む程、女子の女子たる特種の天分が明かにさるべき筈である。地位を高め、權利を伸張すると云ふのも、女子としての社會的地位、女子としての權利を伸張するのでなからねばならぬ。妄に男子と競爭して何事も男子に取つて代らうと云ふのは大なる間違である。それでこの女性の天分、即ち坤德の如何なるものであるかは、各方面から種々に言表はす事が出來ようが、私は今玆に一特徵を擧げて、その美德を讃美しようと思ふ。それは婦人の保守性である。

凡て社會の進步には、必ず進取と守保の兩方面がなければ、堅實な完全な進步發達を遂げることは出來ない。如何に勉強をして學問をしても記憶が無ければ笊で水を掬むも同然である。如何に外交が敏活でも内政が整理されてゐなければ、その國の隆昌は期し難い。如何に夫が外で働いても妻が内で寢轉んでゐては一家は立ち行かない。保守性は學問する場合の記憶の德である。保守性は國政上に於ける内務の德である。保守性は一家に於ける家政の德である。女子の至德である。

凡そ男子が外に出て全力を擧げて事に當る場合に内顧の憂あつては到底思ふやうに行くものではない是非女子の内に在て家政を處理して遺憾なきことを要するのである。男子の行く方向は進取的方向とすれば、女子の取るべき道は保守的の道である。男子が金を儲ければ、女子は貯金すると云ふ役である。若し男子が金を取るよりも蓄へる方に腐心することになれば所謂吝嗇に傾き、女子が貯金をすることよ

りも儲ける方に廻れば所謂貪慾に傾くものである。

更に社會的に考へるならば、凡て社會の發達、文明の進歩は、專ら男子が鍬を取つて先へ先へと開拓して行くに由るのであるが、若しも世の中に老人及び女子の保守性と云ふものが無かつたならば、發見も發明も完成することは困難であり、改良進歩を成就することは不可能である。何等かの發見、發明が適當に應用されて世の役に立つものとなり、これを子孫に傳へて益々改良を加へ愈々人類の福利を增進するやうになるのには、是非これを認め、これを採用し、これを保存し、改良して傳へて行く所の女子の保守性に俟つのである。この點から見て女子が高等の科學的研究に從事して、學位などをもらつてその異數を驕るよりも、男子の研究した事を自分の常識の中に採入れて、世に有益なることに適切に應用し、これを子女に傳へると云ふ事の方が、遙に貴ぶべき女性にふさはしき穩健の事業であらうと思はれる。政事にしても女子自ら代議士の椅子を爭はずとも、家に在て政をなすことが出來る、代議士となるよりも寧ろ廣く深く己の政見を實際的に發表する手段は幾らもあるのである。職業の如きも女子に適當な職業が幾らもあるに拘はらず、飛行機や自働車の運轉手などを希望するものがある。是等は單に好奇的に突飛な事をして世を驚かさうなどゝ云ふ淺はかな虛榮心から起るのであつて、女子の天性を忘却した最も不利な職業を自ら選むものと謂はなければならぬ。歐米諸國の婦人が、家を外にして種々の職業に從事するのは、決して從來の婦人の務を輕蔑し、男子と競業せんとするのではない、實に經濟上已むを得ず、家政の要務を幾分犧牲にしても外に出て働かざるを得なくなつたのである。我國に於ても既に幾分斯の如き情勢に迫つて來ては居るが、未だ自ら好んで外働をせねばならぬと云ふ程の事態ではないそれよりも家庭に於て改良し改革せざるべからざる事で婦人の手に俟つ所のものが非常に多いのである。

最後に醫事衛生上に於て、この尊き婦人の保守性に俟たねばならぬ事柄が非常に多い。先づ第一に公衆衛生に於ても、如何に専門家の間に衛生學が進歩して居つても、一般國民の衛生思想が幼稚なればこれを實際に施すことが出來ない、又官廳に於いて如何にやかましく衛生上の取締や警戒を嚴にしても各家庭に於て、その意味を了解して實行するにあらざれば衛生と云ふことは行はれない。こゝに至つては全く内に在て家政を司る婦人の衛生思想に俟たねばならぬことである。婦人は必ずしも衛生學を研究しなくとも宜しい、又防疫官にならなくとも宜しい。唯現代の衛生學者が研究して得た有益な智識を自分の常識の中に織込むで、一家日常の衣食住を衛生的にして行くやうに注意するならば、これ決して衛生學者、防疫官等の功績に劣るものではない。この場合に於ても婦人は新研究に從事するよりも、今日まで學者の研究し來つた有益な衛生上の智識及び方法を保存して、これを巧に適切に日常生活に應用し、その良習慣を子孫に傳へてもらひ度いものである。更に個人衛生、家庭衛生、特に育兒上の事に至つては全然婦人の力に頼ることであつて、これを等閑にして男子と同じ樣に外へ、外へ、新しい事、新しい事と追ふやうでは、家庭の衛生は暗闇になる。現今の我國人の衛生思想は甚だ幼稚であると云ふても、兎も角も今日の程度迄進むで來て居るのは、古來醫學者、その他の有識者が敎へられた當時の最も有力な學説が、殆んど常識となつて婦人に依て保存されて來たものである。斯の如く婦人の保守性は尊ぶべきものであるが、動もするとこの保守性が仇になる、例へば産前産後に殊更榮養分に乏しい淡泊な食物のみを取り、強く腹帶を施し、分娩時に不潔な襤褸を用ゐ、初生兒に無用のマクリを飲ませ、齒牙の出揃ふ迄乳を含ましめると云ふやうな事は、今日の産科小兒科學上より見れば極めて不都合な方法であるけれども、昔はこれが適當な方法として智者學者が敎へた所の事で、それを婦人が實際に應用して今日に

傳へ來つたのである。兎も角もその當時に最良と認められた智識や方法を今日に傳へたと云ふ事は誠に貴いことである。併しその智識の誤謬、その方法の不合理なことが明かになり、これに代るべき立派な學說方法が出來た今日に於て猶ほもその非を固守するのは、頑冥と云ふもので文明進步の妨となることが甚しい。私が婦人に尊むべき保守性と云ふのは、從來の善良なる習慣風俗乃至有益なる合理的の智識學說等を保存し守護して後生に傳ふるの謂であつて決してその惡習慣、謬見僻說等を頑固に守つて、合理的の新智識、新手段に邪魔をするの謂ではない。この點を篤と領解してもらはねばならぬが、これには婦人にも時代相應の敎育が必要である。然し一般には諸說の是非を批判して、その非を去りて是を採り、これを人生日常の有用事に巧に應用して行くことが出來ると云ふ程度の敎育で澤山であつて、更に進むで高等の專門の學術を研究すると云ふやうなことは、特別の頭腦を有し特別の事情ある女子に限り例外として宜しいかも知らぬが、一般には不向であり、不利であり、不都合である。女子を帝國大學に入學せしむるの可否などが問題になつたらしいが、私は決してこれを拒むべき理由は無いと思ふ。女子が大學程度の敎育を受けると云ふことは誠に悅ぶべきことであるが、大學の全科に亙つて、これを常識として修學し得る程の偉大なる男勝りの女傑ならば格別、普通の女子が誰も彼も大學に入つて一科の研究に從事しようなどゝ企つるのは、寧ろ物好に過ぎない、中途にして斃れるか、然らずんば何等の成績も擧らずして女子最要の天職を空しくして苦痛の間に年をふかし了つたことを嘆くに終るであらうと思ふ。

要するに、女子は女子たる天分の何處に存するかを熟慮し、男子に有利にして女子に不利なる職務を羨望する如き謬見を避け、女子たる本分を完成するを以て誇とし、人間全般の幸福の爲めに男子を相扶けて世の爲に盡さんと努むべきである。女性の諸德

の中で社會的に最も貴ぶべき大切な特性は保守的性質であつて、これなければ社會萬般の事が不安定になり、落着を失つて、鋭意男子の進取的努力も土臺を失つて空しくなつてしまふ。但しこの保守性は善良なる風俗習慣、最善の智識方法を保存し守護して人類進歩の道程に於ける基礎を維持するものであつて、陳腐の俗習僻説を固執して文明の妨害をなすの謂ではない。その宜しきを得るには時代に伴へる女子の教育が必要である。然しその女子教育も徒らに虚榮心、好奇心に驅られて不適當な高等の専門的研究に從事するが如きは、余の採らざる所で、専ら常識を廣め高めて從來の保存すべき事を保存し、廢棄すべき事を廢棄して新なる合理的の善説良法に從ひ、徐ろに人生の改善を計るのが、所謂尊重すべき婦人の保守性の徳であると思ふ。

叢談

嗜眠性腦炎に就て

醫學博士　入澤達吉

流行性感冒がやうやく下火になつて一安心をした昨今又々變な流行病がぽつ〳〵現はれて吾々を脅かして居ります。嗜眠性腦炎もその一つでありますが、これはまだ一般に知られて居らぬ病氣でありますから、入澤博士が御報告になつたものゝ一部分を茲に抄出して御紹介致します。（編者）

昨年夏季の頃、新潟縣及び長野縣に於て、腦炎に類する疾病の流行せることを耳にしたるが、余等は東京に於て、昨年十一月より、始めて嗜眠性腦炎と

思はるゝ患者數名を觀察することを得たるを以て、爰にその大要を報告せんとす。

抑も嗜眠性腦炎の名は千九百十六年維也納のエコノモが始めて命名せるものにして、その後獨逸に於ても引續き地方的小流行ありしが如く、現にキール、ミュンヘン、ストットガルト等に於ける同病に關しシーメルリング、チーフ、オーベルンドルフェル、ゾーレルン等の報告あり。米國にてはベッセのシカゴに於ける流行の報告あり。英國に於ても千九百十八年二月より六月に至るまで百六十餘例の該病の報告あり。佛國にも亦多少の流行ありしが如し。卽ち近年世界の各處に於て、該病の小流行を來せるものと思はるゝなり。（次に入澤博士の親しく觀察された六名の同病に就て詳細の記載あるも今これを省略す）

以上余等の病例を通覽するに、顯著の症候としては第一に嗜眠を擧げざるべからず。嗜眠には深淺の差等あり、その深きものは、殆ど昏睡に近しと雖も、多くはこれを呼び醒すことを得るを以て試に談話をなすときは、或る問に對して、簡單の應答を發することを得、卽ちこの嗜眠は頗る生理的睡眠に近し。然れどもこれを呼び醒したる後も、若し引續き刺戟せざるときは、患者は再び睡眠に陷るを常とす。但し病勢甚しく增進して、末期に近づきたるときは眞の昏睡と同じく、これを醒覺せしめ難し、第一例の如きは、患者の口に食物を入るゝも、これを咀嚼することをなさず、傍より大聲これに咀嚼を命ずるときは、聲に應じて咀嚼す。更に適當の時機に於て、嚥下を命ずるときは、亦嚥下を營むと雖も、その命令無きときは、食物を口にしながら、睡眠すること數〻なり。卽ち患者は外來の刺戟無きときは、晝夜を分たず、昏々として、華胥に遊ぶものなり。然れどもこれ敢て眞の昏睡にあらず、深き熟睡に外ならざるなり。この深睡は各例を通じて皆存在す。但第七例にありては、一汎症狀輕易なるため、嗜眠の程度も亦强からざりしのみ。

嗜眠に次ぐ奇異なる症狀を、上眼瞼下垂となす。

患者は絶えず閉目し居るを以て、談話を試むるに非れば、睡眠中なるや、將た醒覺し居るやを知る能はず。余等の各例を通じて皆然り。患者輕快に向ふとき、嗜眠は既に著しく減弱し、自由に周圍と談話を試むるに至るも、眼瞼下垂は尙ほ存し、充分努力すと雖も、眼瞼を上擧すること能はず、僅に狹き瞼裂を認むるのみ。

眼筋麻痺に依る複視も亦頻發の症候にして、余等の七例中、六例に於てこれを見る。且つ早發すること多し。複視の來たるに依りて、初めて自己が疾病に罹れるを自覺し、醫治を請ふに至れるものあり。複視は多く短時日にして消退すと雖も、第七例の如きは諸徵快癒せるに拘らず、複視のみ、三ヶ月に亙りて尙ほ存するを以て概言し難し。

余等は發熱、嗜眠、眼瞼下垂及び複視を以て本病の主徵候となさんと欲す。外に往々眼球震盪症を見ること（第一及第六例）尙ほ軀幹又は上下肢の筋肉に搐搦あり、殊に奇異なる現象は、下顎に於て持續性に來る間代性の痙搐なりとす（第一、第四及第五例）。これ未だ文獻に見ることを得ざるものなり。

四肢の梗直は屢々見る所なり（第一、第二、第四及第五例）。外に上下肢の筋殊に大胸筋を輕打する時は筋肉に限局せる攣縮を著明に認むることあり（第一、第二及第五例）。

譫妄は數々現るゝ所なるも、多く輕度にして、全く精神の錯亂せる如きものに遭遇せること無かりき。

項部の强直は全然缺けることあり、或は時に輕度に存することあり、高度のものは稀なるが如し。ケルニッヒ氏症狀の如きは缺如すること多し。

筋肉及び關節に「レウマチス」樣の疼痛を訴ふることあり。肩部、項部、肘關節、手指、大腿等に於て一種の疼痛あり數日にして消散することあり或は一ケ月以上に亙りて尙ほ存するものあり。

體溫は昇騰するを常とす。然れども定型無し。弛張あり高低錯綜す。初は三九度乃至四〇度に達するものあり。低下するは概して佳徵なりとす。

脈數は體溫と竝行するを常とす。
呼吸は多く平靜なり。
血液は敢て著しき變狀を見ず。白血球數は九囘の檢查中、一萬を超ゆること三囘、二萬を超ゆること二囘ありたり（第二、第五及び第六例）。他は略〻常數に止る。淋巴球增多症を見ることあり（第一、第三、第六及び第七例）。肺炎を併發するものにありては却て減少す（第二、第四及び第五例）一樣ならず。「エオジン」嗜色細胞は寧ろ減少す。他は各病歷に示せる如し。第二及び第五例に於ては血液頗る濃稠の狀態にありしことも亦注意を要す。

腦脊髓液の壓は十一囘の腰椎穿刺中、百粍を超ゆること四囘ありき（第二、第四、第六及び第七例）。液中の細胞は主として淋巴球にして、一立方粍中最多數は三十六個を算す。二十個のもの一囘、他は皆それ以下なり。液中の蛋白も稍〻增多す。ノンチ及びパンヂーは多く弱陽性なり。但一囘强陽性なりしのみ。陰性なるもの二囘ありたり。細菌を認めず。

死は呼吸麻痺に據ると唱ふる人あるも、余等の觀る所に依れば寧ろ心臟麻痺その死因たるが如し。

上述の病況を通覽するのみにて、既に臨牀的に一種特殊の疾病たることを想像するに足るものあり。腦膜炎に比しては嗜眠の狀態異り、且つ强項著しからず、ケルニッヒ氏徵候多くは缺如するが如きこと一致せず。又殆ど每例に、眼瞼下垂の最初より主症候として繼續存在すること、複視が早發症候として現はるゝ等は、人をして一見奇異の感を抱かしむ。從來既に知られたる急性出血性腦炎の臨牀的症狀とも、一致を缺くものあり。旁た寧ろ一種特殊の疾病と看做すを以て當れりとせん乎。

而してその「インフルエンツァ」との交渉は如何。一昨年秋より昨年春に亙り（一九一八乃至一九一九年）本邦に於て大流行を來し、死者相踵ぐのときに於ては、腦炎患者を見ることは、蓋し稀有に屬せるが如し。然るに昨年夏期の頃、即ち「インフルエンツァ」殆ど終熄を告げたる後、數閱月にして、初めて

嗜眠性腦炎の小流行を各地に見るに至れり。その兩病相互間の關係の有無は、これ研究を要する問題なりとす。墺國に於て Economo が初めて嗜眠性腦炎を實驗せるは、實に一九一六年にして、今次世界的大流行の「インフルエンツァ」の出現に先つもの二年なりき。而してウィーゼチルがその病原菌としてグラム陽性にして猿に移植し得る「チプロストレプトコックス、プレオモルフス」を發見せるも、亦一九一七年のことに屬す。若し「インフルエンツァ」の世界的流行の發端は一九一八年の四五月頃なりとするを以て、誤らずとせば、嗜眠性腦炎先づ流行して後、二年を經て、初めて「インフルエンツァ」の大流行が來りしものゝ如し。尤も小流行は頻年各地に於て遭遇することゝなるを以て、必しも「インフルエンツァ」と腦炎との間に、何等の連絡無しとは云ふ能はざるなり。唯一八九〇年彼のライヒテンステルンが「インフルエンツァ」腦炎として發表せるものと、今余等の目擊するものとは、全然臨牀的の症狀を異にすることは爭ふべからざるなり。往昔一七一二年「インフルエンツァ」流行後チュビンゲンに於て一種の睡眠病が流行せることあり。又一八九〇年「インフルエンツァ」流行後に伊太利の一地方に於て「チ」と稱する嗜眠性の疾病流行せることあり。是等は果して今日の嗜眠性腦炎と同一症なるや、否や、これ亦遽に決定するを得ざるなり。往時の記述は缺陷多くして、語りて詳ならざるものあり。旁た頗る對比し難しとす。

死の轉歸を取りたる余等の三例には、孰れも解屍に際し、兩肺の氣管枝肺炎を認めたり。これ「インフルエンツァ」に數ゝ見る所のものなり。多少原因的關係の參考とならんか。

但今日余等の病例に於て病理解剖的檢索の未だ完成せざるを以て、他日重ねてこの稿を續くことあるべし。既記の如く解屍せる三例にありては、孰れも氣管枝肺炎兩側に存し而して毎常グラム陽性雙球菌を見たるも、「インフルエンツァ」菌を認むる能はざり

き、生前血液中に細菌を見ず。
余等は猿及家兎に穿顱術を施し、腦質の乳劑を注入し、又同時に腹腔内にも、これを注入せるも、嘗て何等の變狀を起せしことなかりき。又南京鼠には、皮下に、「モルモット」には腹腔内に、孰れも腦質の乳劑を注入せるも、成績は陰性なりき（第四及び第五例）。死後の血液を人血寒天培養基及び肉汁培養基に植ゑたるにグラム陽性雙球菌發生せり（第四例の患者）。又野口氏培養基に腦の切片を植ゑたるに、約半數に於て前同樣の細菌を獲たり（第五例の患者）。第四例の患者に於ては陰性なりき。且つ暗視野檢索も亦陰性なりき。（この分醫學士兒玉琢四郎、同永井三、同栃野嚴擔當）

○○○治療法としては對症療法の外に、既に稱揚せられたる「ウロトロピン」、「サリチール」酸「ナトリウム」等を用ゐたるも格別の效を見ざりき。尙ほ治癒せる腦炎の患者より採りたる血清の注射をも試みたるもこれ亦著しき效果無かりき。

腸窒扶斯の療法

醫學博士　二木謙三

二木博士が最近述べられた傳染病の療法中、腸窒扶斯の療法は、本會會員なども一通り心得て居つて爲になる事と存じまして、玆に掲載致します。但しこれは醫師に對して講ぜられたものでありますから、勿論お分り難い處はありませうが、病人の食物の事がありますので特に御紹介する次第であります。然しこれとても實際の場合には主治醫の指圖に俟つべきことは申迄もありません。（編者）

診斷

腸窒扶斯の療法を行ふ前に最も細心の注意を拂はねばならぬ事柄は申す迄もなく其の診斷である、特に最近一兩年の如く「インフルエンザ」流行ある場合等に於て重要であると思ふ、而して今回の「インフルエンザ」流行によつて注意されたことは屢〻「インフルエンザ」と窒扶斯の合併して來ることである。

又同時に肺炎と窒扶斯との合併も決して少なからざることである。

「インフルエンザ」と窒扶斯の合併の場合には多くは「インフルエンザ」は窒扶斯に前驅することである。併し窒扶斯の經過中に「インフルエンザ」を發することは殆んど稀に見る所である。而して「インフルエンザ」が窒扶斯に前驅する樣に見ゆるのは恐らくは窒扶斯の潛伏期が長き爲め卽ち十二乃至十四日又は其以上である爲めに其の間に抵抗力が漸次に減弱し來つて流行時には「インフルエンザ」などに罹り易くなり、又之に次いで窒扶斯が幾らか發病を早むる樣になる爲めであるらしく、卽ち初めは頭痛、腰痛、四肢痛強く、熱は比較的急劇に上昇し、上氣道の加答兒症狀竝に急性胃腸症狀等を有して單純なる「インフルエンザ」と思ふて居る間に熱が稽留して中々下降せず、稍〻疑の目を以て之を注意する間に「ロゼオラ」も追々顯はれ、脾臟も腫大して來ると云ふ樣になることが屢〻で、是等は卽ち窒扶斯の潛伏期中に「インフルエンザ」に罹り、其によりて窒扶斯も稍〻早く發病して其の症狀が全く連續的に進み行くものであらうと思はるゝ。

次には窒扶斯の經過中に來る肺炎である、此の場合には肺炎が窒扶斯に前驅すること前述「インフルエンザ」の關係と同一なる場合もあるが、之れは寧ろ少く、却つて以上に反して窒扶斯の經過中に肺炎を發することが間々多い、特に最近の「インフルエンザ」大流行以來は窒扶斯と肺炎の合併症は非常に多いのに驚かさるゝ、斯かる肺炎の合併の多いのは今回の「インフルエンザ」大流行前には曾て見ざる所のものである、固より少數のものに合併することは從來と雖もないではなかつたが、今回は實に驚くべき多數にして、余の知つて居る所では全窒扶斯患者の三八・八%に肺炎を合併した場合もある、而して其肺炎は「インフルエンザ」に於ける肺炎と同一であつて極く輕症なるものより極く重症にして強く兩側下葉を侵して豫後を不良ならしむる場合も多い、而し

て大多數は初め氣管枝加答兒の症狀で進み呼吸數は漸次二十より二十五又は三十に昇り肺後部下方に漸次に發現する濁音竝に抵抗、呼吸音微弱、聲音振盪の亢進、氣管枝音の傳達、濕性囉音竝に後には捻髮音の聽取となるに至る、咳嗽は少なきことあり、喀痰は普通の氣管枝炎性なるか或は微量或は多量の血液を混ずることあり、又肺の種々の場所に、飛び飛びに肺炎竈を作ることもある。次ぎに窒扶斯には甚だ輕症なるものゝ多數と、甚だ重症なるものゝ少數とがあつて、診斷を迷はしむることがある、其輕症なるものは七日乃至十四日間に下熱して一見流行時には「インフルエンザ」と區別困難であり、ウイダール氏反應は二百倍前後に陽性にして靜脈血より窒扶斯菌の培養に成功する事あり又然らざることあり、斯くの如き輕症窒扶斯は實に全窒扶斯患者の約一四乃至二二%の多數を占むることに注意せられたい、又之より一層輕症なるものにありては保菌者と看做すことを得べきものである。

重症窒扶斯は多くは腦膜炎又は肺炎と看做すべき症狀を以て經過し、七日乃至十四日の經過に於て致死するものであつて、其の最も急性にして一週以內に致死するものは最近の例に徵すれば肺炎の合併の多き場合には五乃至七%を占め、若し十四日以內に死亡するものを合するときは全患者數の一二乃至一九%の多きを占むるが故に最も注意すべきことであると思ふ。

表　大正八年十月某所に發生したる窒扶斯患者中最重症にして七日以內にて致死せるもの

四・五――七・三%（肺炎、腦症狀、急性腸出血合併）

同上十四日以內に致死せるもの

一・二――一九・二%

次に定型的窒扶斯にして靜脈血よりの培養も成功せず、ウイダール氏反應も陰性なるもの全患者の五乃至一〇%あることに注意すべし、尚ほ窒扶斯と「パラチフス」との間の鑑別は大體に於て「パラチフス」

は窒扶斯と「インフルエンザ」との中間的經過を取ることによりて區別し得べきも、其の各自の例症に至りては靜脈血よりの菌培養法並にウイダール氏反應によらざれば明瞭に區別すること能はざるは勿論である。

最後に結核症との鑑別は困難なること多く、且つ今回の如き窒扶斯に肺炎の合併多き場合には亞急性に來る所の乾酪性肺炎との區別は初期より困難なること屢〻なり、又粟粒結核の或る症は窒扶斯との鑑別困難にして必要あれば常に白血球數の算定並に白血球種類の計數を忽がせにしてはならぬ。又生來潜伏性又は休止性の結核あるものは窒扶斯の經過を遲延せしめ輕熱容易に去らざる場合、榮養の容易に恢復せざること等あるを以て是等を適當に鑑別し治療に從事することを勿論忽がせにしてはならない。

療　法

一、食物　は最も好適なるものは重湯卽ち白米の重湯又は玄米或は麥の重湯である、而して理論上より見ても白米の重湯よりも麥又は玄米の重湯の方が一層宜しい樣である、併し患者の嗜好をも充分に參酌しなければならぬ、之れは實際上の話であるが若し患者が重湯を好まぬ場合には梅干、梅干鹽等を舌の上に乘せて然る後に重湯を與ふれば患者はよく飲み得るに至る樣である、重湯の一日量は四合、六合又は八合以上、之には別に制限の必要なき樣である。

牛乳　は歐米人には最も良き食物であるが日本人には適せぬ場合が多い決して强ふべきではない、卽ち下痢又は鼓腸を來す場合には適宜之を減量し又は之を止むべきである、牛乳の一日量は二合乃至三合を限度とする。

卵　は卵黄卵白共に與へて差支ない、但し卵は生或は半熟の儘よりは之を重湯又は「スープ」等に攪拌して與ふる方が宜しい樣である、一日二個又は三個を限度とする。

スープ　は肉、鰹魚節又は野菜等のもの何れに

ても宜し、肉「スープ」は濃厚なるものより寧ろ之れを稀薄して分量の多い方が宜しい様である、野菜「スープ」と稱するものは本邦人には最も必要であつて特に榮養不良のもの、食慾不振のもの、又は皮膚及び粘膜等に出血症あるときには一日も缺くべからざるものである、併し、世間に行はるゝ充分に煮詰めて濃厚としたものよりも野菜の餘りに煮過ごさぬ、少し生煮え位の所で榨りたる稀薄なものゝ方が宜しい様である。

固形食　は必ずしも絶對に忌むべきではない、輕症にして食慾よく卽ち消化機能の減退せざるものには初めより與へても差支ない、唯多くは食慾なき故に攝取不可能のことがある、又吾々は固形食は必ずしも腸出血を促がすものがあるとは思はない、少なくとも其れが機械的刺戟となつて腸を害するとは思はれない、唯固形食は流動食に比すれば容積が少ない故に兎角量に於て多きに過ぎ易い卽ち病人としての消化可能量を過ごし易い、從つて食後胃部に停滯の感あること屢々である、其れであるから量を制限して消化量に適合せしむれば左程害あるものではない、卽ち食慾の全く無くして其れが爲め衰弱を加ふる様の場合には嗜好を有するならば鮨でも蕎麥でも與へて宜しい、唯分量を始め極めて少量となし漸次に增量すべきである。

新鮮なる食料　は經過中極めて必要なるものであつて、之に向つては歐米では新鮮なる肉榨汁、本邦にては新鮮なる馬鈴薯又は「ホーレン」草の搾りつぶし、新鮮なる刺身及び前述野菜「スープ」竝に新鮮なる味噌汁等必要なり、特に出血症、榮養不良等のものに適する、又野菜の粉末を推賞する人もある。

食鹽分は　初期には餘り必要でない、特に尿利澁滯等ある場合には之を減ずべきである、併し發病後六週内外に至れば屢々食鹽缺乏の爲めに食慾不進を起し榮養不良に陷ることあり、此の時注意して味噌汁其の他食鹽分を與ふるがよい、然れども尿の比重一〇一五以上のもの竝に尿中食鹽の含量一％以上

のものは之を與ふる必要はない、時々尿中食鹽の定量を行ふて之を調節する必要があることを注意して置きたい。

水分は　初めより終り迄なるべく多く之を與ふるを良しとす。特に尿利澁滯のもの、尿量六〇〇以下のもの、比重一〇一五以上のもの、食慾不進のもの、腦症其の他中毒症狀の强き者には注意して成るべく多く之を與ふべし、其の形は氷、水「アイスクリーム」湯、茶、咖啡、番茶、紅茶、鑛泉水、炭酸飲料類何れにても可なり、飲料攝取可能にして尿量一〇〇〇以上にて經過するものは豫後良好である、時としては單に飲料療法のみにて諸症を輕快せしむることも稀れでない。

高熱量療法　は外國にては屢〻人によつて高唱せらるゝけれども、本邦の場合には多く行はれ難い、卽ち之を行ひ得る場合は輕症にして食慾の減退せぬもの、重症ならずして消化機能能く保持せられつゝある場合である、節食療法にて充分の效果ある場合には敢へて多食療法を用ふる必要なく、又多食療法に容易に耐へ得る場合には苦んで減食療法をなす必要なく、又減食療法に偏して榮養不良を起すの危險をも注意せざると高熱量療法に偏して消化機系統泌尿器系統の過勞に注意せざるとは共に其の當を得たるものでない。要は症に應じて其の宜しきを得せしむるにある。

食餌の增量　は普通下熱後一週の終りよりする然し乍ら食慾の亢進强きものには、之より早くとも差支なく、又慢性窒扶斯にして六週以上に亙るもの竝に潛伏結核の合併等の爲めに輕熱の持長する場合竝に榮養不良に陷らんとするときには下熱前と雖も成るべく速かに食餌を增量し、食品を交代變換して其の必要に應ずることを忘れてはならない。

二、下痢　あるときは一日一二回に止まるに於ては意に介するに足らぬ、唯初期には全く無害なるも第二週の終り又第三週以後に於ては下痢は腸出血を促がす虞がある、宜しく便の血液反應を檢し特に

屢〻著明なるときは少しく食事特に牛乳に注意し必要あれば之を禁じ、又「オピウム」劑を用ふべし。固より便の血液反應は窒扶斯には多少は之を證明し得るものであると云ふことは注意して之を判斷すべきである。

三、便祕　初期には差支なきも恢復期に於ける頑固なる便祕は往々發熱又は再發を來さしむるが故に注意して灌腸排便し、又は必要あれば硫苦等を與へて通痢を促がすが宜しい。硫苦は初期より恢復期に至る迄之を用ひて差支なきも、第三週前後の出血傾向ある場合には一層注意すべし、併し下劑は人の恐るゝ如く有害なるものではない。往々毒素作用を誘導して一般症狀の輕快することあり、特に脚氣の合併あるときには遠慮なく之を用ふべきである、又注意して之を用ひて而も腸出血を起したとして醫師の過ちではない、腸出血は絶對安靜にしてゞさへ避け得られぬことがあり、又出血より一層恐るべき症狀を救ふが爲めには之を顧慮すべきではない。

四、腸出血　は發病第三週以後に於ては多くは無害にして往々下熱を促がし經過を短縮することあれども、第二週前後に來る早期出血は豫後多くは不良である。其の前徵は便中血液反應の高度著明なることによるべし、輕微の反應は窒扶斯には免がれ難きものである、療法は「オピウム」丁幾を五滴づゝ一日六回、八回乃至十回等與へて蠕動を聽診して之を認めざる程度になし置くを要す、其の持續は出血の程度により五日、七日乃至十日間便通を全く制止し置くべし、之を第一要義として其の他右下腹部の冷却及び止血劑の種々のものを試むべし、併し餘りに無益の處置を反復して患者を苦しめることは宜しくない、出血多量なれば反復して食鹽水皮下注入を行ふ方が宜しい。

五、鼓腸　は屢〻心臟不全症を起さしむる虞がある、又心臟不全症の一徵候として顯はれ來るものであるから注意を要する、卽ち牛乳、鷄卵等を避け、食料を減じ、「メンタ」水の溫罨法等を行ふべし。

六、心臟衰弱　窒扶斯に心悸亢進を來し脈搏一二〇至以上に至るときは重症なり、但し小兒婦人には必ずしも然らざるを以て全身症狀によりて之を決すべし。若し心臟衰弱の徵ありて脈搏一二〇以上を超ゆるときは實芰答利斯浸一日〇・五づゝ五乃至七日間持續し脈一〇〇至に至れば之を止むべし。然れども個性によりては兩三日にして既に實芰答利斯脈を呈することあり、又集積作用に注意し心悸遲徐を起せば速かに之を止め「カンフル」、咖啡涅劑等を用ふ、集積作用は注意して休藥せしむれば多くは無害に治癒し危險なし、然れども精神興奮、睡眠不安の場合には咖啡涅を止むべし、「カンフル」は之を用ふることは害なし、實芰答利斯は同時に下熱作用を顯はすことがあるから窒扶斯療法には重要缺くべからざる藥劑の一である。

七、蛔蟲　寄生あるときは早期に之を驅除すべし、然らざれば經過中に食慾を減退せしめ又は腹痛不快感を起し宜しくない。

八、耳下腺炎　は早期に之を發見し局所に水蛭を二三十條づゝ每日一回づゝ兩三日間反復して貼用腫脹減退又は化膿豫防を講ずべきである。

九、脚氣　は最も恐るべし、下劑療法、食餌療法、糠越幾斯療法等を試む、初期に劇烈に來るときは豫後不良なり、之に對して下劑の應用は何れの場合、何れの時期にも差支ない、之れ脚氣合併其のものは下劑によりて來り得る害よりも甚だ危險であるからである。

十、特異療法　は從來種々に研究せられしも未だ滿足なる結果に到著せぬ、「ワクチン」療法、血清療法等皆然り、近時市川博士によりて唱道せられたる感作窒扶斯「ワクチン」靜脈內注射療法も目下人之を用ふるものがない、倘は更に更に研究を要すべきものである。

總括　之を要するに腸窒扶斯の療法は倘は未だ理想的の域に達しないのである、故に先づ機敏にして適法なる對症療法を最良となすの外はない、要は

本病には自然治癒作用あるを以て醫は巧みに之を害せざる様に治療するを以て技の良なるものとす。

樂しき心の爲に

醫學士　高峯博

一、お老爺さんと辭世の話

甚だ滑稽な馬鹿げた話ではありますが、併し事實私が去年の暮に經驗した事であります。或る日の事或る未知の人から、傳手を以て使者を寄越し、私に一首の辭世を書けよと云ふのであります。私も驚いた。まだ、さう早く死ぬるつもりも無し、死ぬるとしても、辭世を詠んで死ぬのか、どうかは、嘗て考へて見たこともないのに、全く顏の見知らぬ他人から、出しぬけに、こんな事を申込まれては、實以て甚、驚かざるを得なかつたのであります。

所が追々、話を聞いて見ると、かういふ次第なのです。此の人は東京から程遠からぬ、山國の人で、もはや六十の坂を越した老人であります。或る機會に、私の一著書を讀んで、私の名を覺えたさうですが、偶〻知り合ひの一青年が東京へ來るといふのでさてこそ日頃の希望を傳言した——即、彼はもはや老い先きの短い身で、いつ死ぬるか分らぬから、いづれ、死に際には、此の世へのかたみに可成りの歌でも殘しておきたい。けれども自分はとても歌なんかは作つた事もないから、一つ東京に居る私にでも、其の辭世の代作を依賴しやうと云ふのであります。なーる程、それで私もやつと安心したが、併しさう分つて見れば、益〻滑稽である。

奇拔な注文も注文であるが、之を取次いだ人も人である。しかも兩方とも正眞正銘に眞面目なのだから私も恐れ入りました。

諸姉よ。併し、笑ひ給ふ勿れ。なんと此の傳言の裏に、田舍親爺の朴訥な、そして罪の無い、可憐な姿が想見されるではありませぬか？　私はかう云ふ

おぢいさんは大好きだ。彼は世の人が臨終に歌を詠むことのあるのを、書物で見たり、話に聞いたりしてゐたのであらう。しかも辭世てふものゝ眞意義を知らない。即、自個本心から、此の世を去るに臨みて、其の感懷を漏らすべきものであることを知らずして、唯、其の外形のみを、こんな事するものだと覺ふてゐる。隨つて代作でも、借り物でも何でもよい、三十一文字の歌を豫め覺えておいて、死出の旅路の、他所行の心を飾らうとしたものでありませうけれども、此の心理には些も狡猾と稱すべきやうな惡い心は無い。全くの無智なのであります。だから其の私に傳へ來る態度も眞面目であつて、なんと無邪氣なと思ひこそすれ毛頭、そこにいや味も憎しみも有ち得ない。

併し乍ら、此の可憐の好々老爺は、所詮、世間並みに外れぬやう、否、其れ以上に出やうとして、却つて、益々、自己の無智を表白し、又、時代から遠かるべき運命を曝露して居ります。唯、此の老爺の心理は、無垢純白にして、人も辭世を詠むから、自分も詠みたいといふ、子供の如き無邪氣な眞似の心があるだけで、敢て、エラクも、よくも思はれやうとの、さかしらな虛榮の心が無いから、そこが美しいのである。私が大好きといふわけも、これであります。

而てこゝに翻つて、私どもお互の心の内を省みて見たい。私共が心に何か考ふる時、そこに、何等か人に誇らんと企つる事はないか？　又何かと言ふ時何かを爲す時、何かを見せる時、そこに己が心の淺はかな、虛榮が働かぬか？　淺薄な虛飾に墮しては居らぬか？

私共は無智の老爺を嘲笑ふよりも、己が心の虛僞を叱責せねばならぬ。そして、私共のさかしらな、不純な心を振り捨てて、純眞な老爺に共鳴する心情を抱くやうにしたい。

二、お主婦さんと新聞

「ねえ、お隣りのお主婦さん、△△が殺されちまつ

て、惜しい事しましたね。あれ迄苦勞してさ、もう少しといふ所で殺されたんぢや、しやうが有りませんや。今、もう一寸早く逃げれあ、よかつたのにねえ」

「えゝ、でもね、私には、まだちと判斷が付かぬ事があるんですよ。あの樣子ぢや、ほんとに殺されたんぢやないとも見えますからね」

頻りと、二人の下級社會のお主婦さん同志が、大きな聲で熱心に話し合つてゐるのを耳にして、私も何事かと驚いた。

「えゝ、さうかも知れませんね。私にもまだハッキリと判斷が付き兼ねてるのですがね。何にしろ、私が毎日、毎日、あんなに一所懸命に待ち焦がれてゐるのにさ、昨日は夕刊に小說を休みやがつて下らぬ廣告ばかりを澤山して、私は腹が立つて、口惜しくつて堪らなかつたんですよ。」

それでやつと分つた。「殺された」の「まだだ」のつて、何事が起つたのかと思つたが、彼等は新聞小說の話をしてゐるのであつた。彼等の話は愈々發展して行く。併し、結局、小說の事ばかりである。話の中には「何々新聞は小說が面白くなくなつたから止めたんですよ」とか、「あんな廣告だの、つまらぬ事を仰々しく書きたてゝ、小說を拔きにするなんて、ほんとに人を馬鹿にしてゐる。つまあゝして、長引かして賣らうといふ算段ですね」などゝいふ言葉が、雙方から、非常に共鳴し合つて出る事と思ふと彼等には、新聞は小說を讀ませるものとしてのみ、之を認めてゐるのらしい。

私は彼等の熱心な會話を聞き乍ら、成る程、矢張り彼等の程度はこんなものかと思ひました。私どもは、平素、男の友人からも女の知人からも、ともすると「近頃の雜誌や新聞や書物で、頻りに婦人を論題にするが、併しどれもこれも淺薄皮相のものばかりで、ろくなものが有りはせぬ」との批評を一再ならず聞く。尤も私自だとて、さう思はぬ事もないが、併しまた實際の經營者とも多少の交際が有るの

で、其の內情を聞かされてゐますから、心の中では「さう君等の樣なことといつても、駄目だ。又、君等自身が一つ試みに出來るだけ淺薄なことでよいから、何なりと話すなり書くなりして見給へ。ひよつとすると、そんな批評をさかしげにする方が、寧ろ淺薄ぢやなからうか」と考へる事がある程です。

淺薄だと罵る人自身が果してどれ程、深刻であるのか、讀書力のあるといふ婦人が、果してどこまで深味を得てゐるか？ みな他人の心の中の事であるから、計量のしやうも無い。けれども私自身の一日の生活から云つても、今日こそはと思ひ立つても、之を其の夜に反省する時、決して、時々刻々に充實のし續けではない。また、實は却つてそんな事すれば或は身心上に故障を起すかも知れぬとさへ思はれる。自分を以て他人を推せば、恐らく人もさうであらう。而て社會は所詮、人間が集團する事による一現象であつて見れば、此の論法は社會に於いても通用するに違ひない。

私には、いつも世間で何んのかんのと、他をけなしたり、批評したりするのを聞けば、どうしても彼等は弱者だなと思はれる。又、そんな人の心の底にどうも濁りのあるやうに感ぜられてなりませぬ。願くは無智でもよいから、かの二人のお主婦さんの樣に眞個の熱心を以て、讀書したいものである。又すべての世相に接したいものであります。若し夫れ、それ相應の素養があつて、しかも斯くばかり眞卒で有り得る人にとつては、其の心の中の愉快さは眞に如何ばかりでありませう。

（以下次號）



兒童の職業選擇に就て

ドクトル　三田谷啓

諺に「藝は身を助ける」といふことがある。藝とは職業で身とは生活である。げに職業の選擇は人生に於ける最も意義あるものゝ一つである。個人が適當の職業を得ると得ざるとは自己及びその家族は言ふに及ばず延いてはその子孫にまでも影響が及ぶのである。茲に於てか兒童職業の選擇は醫學的、心理的、敎育的に研究を要することが大に切實になつた小學卒業前後の兒童の職業に關する知識は甚だ幼稚である。予は親友稻葉幹一君より多大の援助を得て學童（東京市本鄕區某小學校）の職業につきての希望及びその變遷の狀態を調査することが出來た。此調査は大正七年十一月に實行したのであるがその人員は左の如くである。

	男	女	計
第一學年	六六	七五	一四一
第二學年	六〇	五七	一一七
第三學年	六一	五〇	一一一
第四學年	八一	五九	一四〇
第五學年	五八	五二	一一〇
第六學年	三五	七三	一〇八
計	三七九	三六六	七二七

兒童に質問した事項は(一)あなたのちゝはなにをしておいでになりますか(二)あなたはなにゝなりたいですか(三)どうしてそれになりたいですか(四)あなたの一ばんえらいとおもふひとはだれですかの四項目であつた。其中第四項目を別にして他の三種の答案を整理した。

職業の種類

男子の職業に關する理想の種類及びその變遷は左

の如くである。先づ男兒の職業に關する希望から始めて見よう。

希望	學年 I	II	III	IV	V	VI
軍人	五二(七六・八%)	三七(六〇・六%)	二八(四五・九%)	五二(六四・二%)	二二(三七・九%)	二三(四三・四%)
商人	ー	ー	一三(二一・一%)	九(一一・一%)	一七(二九・三%)	一四(二五・九%)

軍人希望者の數は學年を昇ると共に漸次減少の傾向がある。これに反して商人を望むものゝ數が漸々增加の傾向あるは大に注目すべきことである。次に女兒は如何にと見るに素より男子とは其趣が違つて居る。

希望	學年 I	II	III	IV	V	VI
偉い人(立派な人)	一七(三一・七%)	二三(四〇・四%)	六(一三%)	一一(一八・六%)	八(一五・四%)	五
およめ	一二(一六%)	二	ー	一	六(一一・五%)	ー
教員(先生)	一〇(一四・七%)	一	一一(一三%)	一三(一三%)	九(一七・三%)	八(一一%)
裁縫を習ふ	三	九(一五・八%)	一	一〇(一七%)	八(一五・四%)	
師匠	ー	ー	八(一六%)	ー	ー	
商人	ー	ー	八(一六%)	五	二	
勤め人	ー	ー	六(一二%)	ー	一	
看護婦	ー	ー	ー	一	三	
仕立屋	ー	ー	ー	八	二	
主婦	ー	ー	ー	ー	ー	

今これを多數の順に列擧すると次の如くである。

第一學年　偉い人(三一・七%)　およめ(一六%)　先生(一四・七%)

第二學年　偉い人(四〇・四%)　裁縫を習ふ(一五・八%)

第三學年　先生(一三%)　師匠、商人(共に一六%)　勤め人　偉い人(共に一三%)

第四學年　先生(一三%)　偉い人(一八・六%)　裁縫を習ふ(一七%)

第五學年　先生(一七・三%)　裁縫を習ふ　偉い人(共に一五・四%)　およめ(一一・五%)

第六學年　商人(一七・八%)　主婦(一五・一%)　先生(一一%)　看護婦、仕立屋(共に九・六%)

本調査の詳細につきては心理研究第八十六號を參照せられんことを望む。

希望の理由

希望に對する理由を分けて見ると大要次の如くである。

一、父と同じ職業を希望するもの。
二、父母又は近親のものに勸められて職業を選ぶもの。
三、父の職業と何等の關係なきもの。
四、低級の欲望に本づけるもの。
五、性的傾向に本づくもの。
六、敎育に本づくもの。
七、無意識的衝動に本づくもの。
八、自己の缺點を自覺せし爲め。
九、財產慾の爲め。
十、抽象的理由。

職業選擇指導の必要

右に掲げた兒童の希望を見るに職業に關する知識が充分でない。この故に學校卒業期に近きものは適當の方法によりて職業選擇の相談及び指導をすることが大切である。

一、學校卒業の間際には學校醫が兒童を檢診して適不適の職業を兩親に注意すること。
二、敎師は當該兒童の智能、興味、性格等につき充分の觀察を遂げ職業的相談に應ずるやうにすること。
三、社會的兒童保護機關の一として職業選擇の相談に應ずること。
四、この場合には左記の點に最も留意すること。

(甲)兒童自己に關して

一、精神方面(一般智能、性格、意志、特殊的才能、性癖、興味、欲望、信仰等)
二、身體的方面(體格、體質、榮養、健康狀態、病的現象、特殊狀態等)

(乙)兒童の環境に關して

一、兩親の地位、職業、年齡、信仰等
二、同胞の數、年齡、職業
三、其他親族、朋友等の關係

右の中最も注意すべきは兒童自己の精神及び身體

である、世にはこの點を顧慮せずしてあまりに環境に重きを置きしため兒童の生涯に極めて不幸の運命を招來すること決して少なからず遺憾のことである。余は一方にありては學校醫の特にこの點に於て努力せられんことを望み、一方にありては社會的に適當の機關の設けられんことを望むのである。

最後に職業的教育の普及を求むと共に職業案内の根柢として研究が進むやうに希望したい。これには種々の條件がある。例へば諸種の事業を研究しこの方面の知識を兒童に授けること。職業の選擇に方つては各種職業の釣合、給料、將來の發展、職業に關する圖書の出版、職業參觀、各種職業に關する講演等の如きである。思ふに戰後の職業は男女共に著しく重要の度を加へることであらう、この時に方り兒童の指導者が充分同情と理性と知識とを以て適當に保護を加へることは頗る必要のことであらう。

春さきの小兒眼病

莊司秋次郎

春は一體に眼病が多くなる、平素氣にも留めぬ程の結膜充血、殊に輕微の慢性結膜炎などのある人は、春になると眼が澁いとか、眼が重いとか、眼脂が出るとか、霞むとか云ふものであります。斯樣な狀態に在れば從つて他の眼病もこの機に乘じて發生し易い。又屈折機の異常、即ち近視とか遠視とか亂視とか云ふものも、春季に初めて氣が付く場合が多い、元來あつた屈折異常の度も春季に進むことが著しいやうであります。又必ずしも春季のものとは限りませぬが春季加答兒と稱する一種の眼病がありまして、それも名の如く大抵春に發生する場合が多い。其他種々の眼病は凡て春に起りたがるものであります。今特に小兒に多い眼病に就て申しますと、小兒には一般に皮膚の濕疹が多いやうに、眼にも矢張そ

の濕疹が多いのであります。それは先づ普通の皮膚の濕疹と同樣に眼瞼に參りまして、眼瞼が紅く腫れ、水疱が出來、それが膿を持ち、後には一體にぐしやぐしやし最後にはそれが塊つて痂皮になり、又かさかさした糠をなすりつけた樣な鱗屑を生ずると云ふやうな具合で、斯樣な狀態が別々に起ることもあり、同時に不規則に起ることもあります。それは小兒に多く、又小兒では甚だ療治しにくいものである。と云ふのは、元來濕疹の出來る小兒は、既にその體質が斯樣なものゝ生じ易い體質なのであるから、これからして治療を施さなければならず、それに加ふるに小兒は兎角不潔な手を以て眼を擦る癖のあるものであるから、その不潔と手の直接の刺戟とで益々治癒りにくいのであります。それで幼兒なれば可哀想ではあるが、眼を擦することの出來ない樣に細帶の如きもので肘の處を胴に縛つて掣肘しなければならぬ場合があります。或は擦つても差支のない樣に膏藥を塗つた紋巴で面型を作つて顏に掛けることもあります。と云ふて斯う云ふ小兒は、普通用ゐられる濕疹の膏藥に由て却て濕疹を起したり、增惡なつたりするから、これ亦注意を要するのであります。それから通常眼病と云へば何でもかでも眼を洗つたり罨法を施したりするのが例でありますが、濕疹の場合には往々これが爲めに益々惡るく致します。斯樣なものでありますから、これは醫師の治療方針に從つて、家庭では唯淸潔と凡て刺戟をなるべく避けることゝ、鹽の辛いものや餘り脂濃いものを控へて寧ろ淡泊な食物を與へると云ふ位の處が養生法であります。夏になれば海水浴でもさせるのが再發を防ぐ一番宜い方法であります。

次にこれも似た樣なもので眼瞼の緣の處が赤くなつて睫毛の根本の處に糠の樣なものが附き又は痂皮を生じこれを剝せば赤くなり或は潰瘍が出來て居りなか／＼治癒らないものがあります。卽ち眼瞼緣炎と稱するもので、これが甚しくなると外觀が不潔になり、小兒は羞明さうに眼をしばたゝき、頻に手で

擦すつて益々頑固にするのみならず、眼瞼の縁が厚くなり、睫毛が脱落てしまつて其跡が禿になり、縦令再び生えても兎角舊の様な立派な睫毛は生えず、細い艶のない睫毛が生えたり、或は惡く太い短い行儀の宜しくない睫毛が生えたりして、永く外貌を醜くするものである。故に特に可愛らしい女兒などにとつては將來の爲め大に注意しなければならぬことで、あたら美人を些かの事で醜婦にして仕舞ふやうな虞があります。

霰粒腫、麥粒腫、何れも俗に「モノモラヒ」と云ふものでありますが、これも春によく出來るもので、唯少しく膨れて、觸れて見るとゴロ／＼するだけのものもあれば、紅く腫れて、その尖端に黄色い膿點を現はして來るのもあり、眼瞼が丸で膿の嚢の様になり、小兒では顔半分が腫れ上るやうなのもあります。是等は何れにしても極最初ならば水で冷やして見る、それで退かずに大きくなり赤くなるやうなれば、寧ろ溫める方が宜しい、而して成るべく早く手術を受けて根治するやうにしなければなりません。さうでないと眼瞼の内に何時迄も硬い豆の様なものが殘つて眼瞼の形を變化させたり、或は小兒の軟い眼瞼、特に下眼瞼が膿むで潰れて後が大きな瘢痕になつて醜貌を呈することがあり、又反復再發して困ることがあります。甚しいのは、その膿が腦の方に傳はつて腦膜炎を起して死亡したなど〻云ふ例もありますから、「モノモラヒ」とて馬鹿には出來ませぬ。

次には結膜炎、これは特に春季に多いもので加答兒性結膜炎と云ふ症狀を呈する。所謂「ヤンメ」、とか「ハヤリメ」とか稱せられ、眼が熱いやうな氣がし或は痒いとか痛いとか、羞明いとか云ふやうな症狀が起り、殊に眼球が赤くなつて分泌物が多くなる。小兒はこれが爲に不機嫌になり、眼の周圍が不潔になり、加之ならずその分泌物は傳染性を有する場合が多い、卽ち種々の病原菌に由て起る場合が多いのであります。單に急性結膜炎と云ふ狀態に止まれば、直ちに適當の治療を加へれば大抵二週間位で治癒し

ますが、賣藥などでいゝ加減なことをして居ると、兎角慢性のものにして仕舞つて、一時治癒つた樣な氣がするが、少しく眼を使つたり、風に吹かれたりすると忽ち前と同じ樣な症狀を發して來るものであります。尙ほ加答兒性結膜炎の時に角膜に浸潤が出來、それが潰れ、甚しければ角膜に孔のあくこともあります。それが大人なれば構はずには居れぬ、必ず治療を受けるに相違ありませんが、小兒は疼痛がない限りは比較的平氣で居る、又浸潤が出來て羞明しいとか、潰瘍になつて疼痛がある場合には眼を閉ぢて眼球を見ることが出來ない、特に眼を開いて見やうとすれば益々眼を固く閉ぢて角膜を覗ふことが困難である。それで大抵そのまゝにして置く。幾日も幾日も眼を開かないので、吾々の許に連れて來る。能く檢査をすると既に眼が潰れかけて居ると云ふやうな場合が尠なくない。特に幼兒になれば多い。又單純の「ハヤリメ」だと馬鹿にして居つたものが、案外膿漏眼で、眼科醫の診察を受ける際には、兩眼共既に失明して如何とも手のつけやうがないと云ふやうな事が屢々ありますから、小兒が眼脂を多く出し或は自ら眼を閉ぢて開かぬ場合には一刻も早く診察を受けることが必要であります。

家庭衛生

主婦の任務

メリー、ルイス、フースト

これは米國コロンビヤ大學「チーチャーズ、カレッヂ」の家事科の爲に講ぜられた家事科敎授要綱でありまして、東京女子高等師範學校の學術談話會叢書第一號として翻譯されたものであります。風俗習慣を異にして居る我國では大に斟酌せねばならぬことは勿論ですが參考として有益なものと思はれます。（編者）

主婦の任務は、其範圍頗る廣濶多樣なり。理想的の主婦は、第一に料理に堪能にして、如何に調理せば、嗜好に適する食物を得べきかを暗んじ、又一方に於ては、其經濟上及滋養上の價値を明らかに理解せざるべからず。第二には、普通衣服の裁縫を擔任し、更に進んでは、雇人の監督をなし、日常物品買入方に關する詳細を會得し、家の收支計算を辨へ、病人の手當に關しても、敏活巧妙ならざる可からず。彼等は、穴倉の底より天井裏の物置に到る迄、家庭内に起る總ての事柄につきて至大の注意を拂はざる可からず。而して主婦の任務は是等單に家庭管理人たるに止まらず高尚なる趣味と經濟とを以て、巧みに家内を裝飾し、子供の教育に必要なる、道德學及び心理學さへも辨へざる可からず。（ルシー、エム、サーモン）

目次

第一章　家事に關する教育

一、教育には（一）學究的、（二）職業的の二種が含まれて居る。後者には、（イ）正確な原理、及（ロ）巧妙な實地に於ける應用（例へば、農業、機械又は家庭に於ける技藝の如き）を主眼とす。

二、家事の範圍は甚だ廣汎に亙る。

（１）家事は、一方に於ては、（イ）女子一生の任務で、又（ロ）世事一般の事業に從事する人に必要缺くべからざるものである故に（ハ）家事に關する多少の智識、及其巧妙な應用は、何れの人にも必要なるものである。

（２）理論上、家事は、總ての科學及技術の焦點である。

（イ）生物學及生理學は、基本をなしてゐる。家事の法則は、廣義に見れば、總ての生物の構造及機能に密接な關係を有するものである。

(ロ) 細菌學は重要である。即ち、細菌學の敎ふる事項の中食物又は傳染病に關するものがある。

(ハ) 物理學も必要である。之に據つて、家事に大關係ある處の水、空氣、瓦斯等の性質、及熱、光及電氣等の作用について、之を說明するのである。

(ニ) 化學は、食物の選擇及調理、消化作用、組織の性質及殆んど總ての洗滌作用に關して、光明を與ふる。

(ホ) 衞生學は、淸潔及經濟の理を主眼とし、精力の貯藏によつて、能力長命及幸福を齎らす事を敎ふ。是又主婦が經費の如何に關せず、注意して黴菌や害蟲を驅除するが如き事によりて、發揮せらるゝものである。

(ヘ) 歷史及人類學の智識により、手藝、官職、家具の飾り付け備へ付け、衣服及流行につきて多少理解し明晰な判斷をなすことが出來る。

(ト) 經濟學は、クセノフオン (Xenophon. 希臘の史家で又有名な將軍) の家政研究に其濫觴を有し、日進月歩遂に現今の盛大を致したのであるが、猶現在に於ても、家庭に於ける秩序、世話、處置、生產と消費及富と發展等の事柄に其中心を置いて居ると斷じて、差支へない。

(チ) 科學的管理法(Scientific management)は多くの原則から成立つて居て、又是吾人が適當に家事上に應用し得るものである。

(リ) 社會學は、社會と家庭との本性、任務及相互關係について、光明を與ふるのである。

(ヌ) 最後に美學は、吾人の生活の最微なる事柄にすら、光彩を發揮せしむるに與つて力がある。

三、故に家事研究の範圍は甚だ廣く、日常起る雜多なる事柄は上述の如き多くの研究の機會を提供する。過去の家庭については何人も、異口同音に、其守舊的にして、發達遲く不秩序にして而かも拙劣に管理せられたる、又甚だ不經濟な事を批難せぬものはない。是吾人の歩を進めて改良すべき餘地多い事を示すものである。又一方に於ては、如何なるものでも、家庭で成功した事物は更に進んで、社會の重大なる工業、經濟上又は社交上の疑問に解決を與へて力あるべき事は、喋々する必要のないと思ふ。

四、經濟學者として家庭管理人は、衞生學及科學的管理法に通曉して、時間及精力の經濟を考へ一

方では普通の資金、價格、賃金其他の關係をよく理解して、金錢上の經濟にも心懸けねばならぬ。

(1) 生産者としての家庭管理者は、善く考慮し又良く按排して之ならば、直接的或は關接的に利益を獲得し得ると確信した後、其確信に從つて行動の方向を決せればならぬ。

(2) 消費者としては、自分の造らうとするもの、或は購買し樣とするものゝ使用上の能力について熟考し其等の物品が生産せられ或は購買される時に、投ぜられた資本と、比較研究する必要がある。

五、斯くの如く、家庭は種々複雜な部分で組立てられた錯綜した結合體である事を知るであらう理想的に此家庭を管理するには(一)博識なるを要し、(二)多くの事柄の要不要の比較又事柄に隨從して起る事項及調和に關して巧妙な判斷を下し(三)金錢のみならず、時間及精力の消費にも愼重であつて、最後に(四)總ての手段、方法等に注意するは勿論、其れから生ずる結果の如何についても、豫め心に期する處が無ければならぬ。

第二章　生活の標準

一、豫算は、項目によつて組立てられ、其項目によつて、個人或は家族の實際上の行動及仕事を制定し、斷案を下すので、其編成如何は種々の事業及人生の幸福に密接な意義を有するものである。

二、豫算編成に關しては、合衆國勞働局(the United States Bureau of Labor)セージファウンデーション(the Sage Foundation)の研究、及チャンピン氏(Chapin)モアー氏(More)及リチーズ氏(Richards)等の著書を參考として調査するに、吾人の支出の主要項目なる、

(一)住居、(二)食物、(三)衣服、(四)衛生及療養、(五)諸雜費等に於ける、標準的、一般的の金額は、大抵左の如きものである事を推知し得た。

(1) 一年六百弗から七百弗の支出で生活せればならぬとし、二人の大人及三人より多からざる子供の一家族に就て見れば此の收入による生活の程度は不充分な住居に住み、不充分な衣服を纏ひ、榮食の不足せぬ最小限の食物を執り得

るにすぎぬとして衛生療養、及娛樂に關しては、公共の援助に依賴せればならぬ。

(2) 八百弗より九百弗を以てしても、歐洲でこそ漸く生活を爲し得るも、合衆國では未だ滿足な生活は營まれぬ。

(3) 九百弗乃至一千弗を以てすれば、ニューヨーク市では、物質上の不足無しに生活し得る。即ち、可成りの住居及衣服を得、體育又は娛樂として多少の設備もする事も出來るし、稍々充分な食物も攝り得る。大人一日の食物は最低二十三仙とする。

(4) 一千百弗を以てすれば、多少の貯蓄もなし得るし、女子の調度費は男子の衣服費に超過するに到る。この金額を持つて、田舍に赴けば、安樂に生活し得。

(5) 收入二千弗に至つて、始めて理想的に支出の割合を決定し得る。即ち二十五パーセントを食費に、二十パーセントを家賃及衣服費に、十五パーセントを瓦斯電氣水道及暖爐裝置等に、二十パーセントを「高尚なる生活」――讀書、娛樂等に用ふることが出來る。

(6) 四千弗の豫算では、瓦斯電氣等の費用を十七パーセントに衣服を十二パーセントにする。

三、標準の維持

(I) 收入の增加と支出の割合を見れば、(イ)住居費は一定、(ロ)食料は減少し、(ハ)衣服は增加し、(ニ)裝飾及雜費は急速に增加すべし、一般的に云へば、合衆國の生活に適する樣に加減されたるエンゼル(Engel)の法則に從つて行はるゝものである。

(2) 標準の維持は、收入ばかりで左右されるのでは無く、寧ろ巧みな消費の方法によつて行はるゝものである。

(イ) 例せば、不適當、不充分の食物は、大抵の場合選擇又は購買の拙劣に據る。

(ロ) 貯蓄の程度は、個人、國民の如何を問はず、其貯蓄者の克己心、將來に對する考資力及品性を遺憾なく表はす。

(3) 眞の標準は、境遇模倣、土地及家の慣例等で決せられればならぬものであるが、實際を見れば、單に利益或は習慣のみならず「見せびらかしの收入」及び「見せびらかしの支出」をなする爲の、競爭張合ひに隨分左右されるのを見る。

(4) 標準も支出も共に、適、不適、樂、不樂及貧富の程度によつて決せらるべきもので、殊にマーシャル氏(Marchall)の「限定的利用」(Marginal utility)の原理に從ふを要する。即ち換言すれば、總て相當――分限を越えぬ標準に從へ

ばよし。

第三章　會計

一、家事會計の目的は、收入の巧妙なる分配消費によつて、生活に裨益を與ふるにある。それに關する要諦は、(イ)豫算編成に關する注意、(ロ)收入、支出に關する周到な記錄、(ハ)他家の豫算との比較研究、其れに附隨して、(ニ)理論上及實際上の理想等に心を止むるを要する。

二、家庭會計の範圍

(1) 商業會計と異つて居る點。

(イ) 支拂ふべき現金及手形が主要な要目である事。

(ロ) 收入と支出との關係が更に重大な事。

(ハ) 一般に膨脹よりもむしろ、控目を理想とする事。

(2) 家庭會計は、結局左記の樣でなければならぬ。

(イ) 一見明瞭に、活動狀態を示す事。

(ロ) 簡單なる事。卽ち主婦は多忙で、簿記以外に爲すべき事が多いからである。

(ハ) 正確であるべき事。卽ち手際よく記錄し、見出しを容易にする事。

(ニ) 種類別けをする事。卽ち同じ要件が二度記入される事を防ぐためである。

三、家庭會計の組立

(1) 內容。

(イ) 現金勘定。

(ロ) 日誌。編年體の方がよいのである。

(ハ) 元帳又は摘要。小額の勘定には手數を要せないが、大額の勘定には、二重記入の手法がよい。

(ニ) 精算表。收入、消費及其外に財產目錄を記入するがよい。

(ホ) 證文控へ。卽ち、受取證文、拂濟手形其他について、記入するのである。

(ヘ) 特種欄。雇人の給金等に關して、記入するもよし。

(2) 帳簿か又はカード、若くは兩者を併用すべし。

(イ) 帳簿はカードと比較して、一般に用ひられ、又恒久的であるが、伸縮自在を缺く。帳簿は(い)輕便であるのがよいけれど、餘り小形に失してはならぬ(ろ)項目に從つて、面倒を生ぜない程度で充分に欄を造るを要する(は)總て見出しを造り、大體の豫算及其配列の區分を表はすべし。(に)一般に用ひらるゝものは、二重頁の方法である。卽ち、一行每

に一日の勘定を記入する處の一ヶ月の勘定の頁、及同樣の形式で、一月毎の勘定を記入する一ヶ年の勘定の頁である。

（ロ）カードには、（い）諸種の形式、色彩、罫線、綴方及容れ箱の種類がある。（ろ）カードは、記錄、聚集、比較及組合せに於て至極簡單である。（は）けれども、カードを巧妙に使用するには、組織と順序に就き相當の考がなければならぬ。

四、今や、家庭會計の必要を此處に喋々するを要せない。家庭簿記によつて、吾人は消費の高分配反家政の傾向を知り得べく、又家事に關する特別の事情及比較研究より得る處の特殊な智識を窺知し得べく、最後に生活の標準を決する事が出來得るに至る。斯くして家庭簿記は收入を獲得する人及其消費を司る人に共に光明を與へ、各自の獨立及協同の行動に貢獻する處あつて、煩忙な家事に從事する上に起る種々の問題に、樂味と幸福を齎らすものである。而して若し吾人が節約を欲するならば、何等かの形式で簿記を勵行する必要がある。

要するに、家事簿記による消費の研究は、人の容易に覗ひ得る所で、生活の原理を明かにし、從つて活力及時間の價値は勿論、其他のもの々益々深き注意を要することにつき吾人をして知らしむる處が甚だ多いのである。

（以下次號）

榮養と食糧經濟（承前）

米代用の主食品調理法

（一）麥飯

麥	四合九勺
胡麻	適宜
鹽	適宜

右の量にて白米三合五勺に相當する溫量と十三匁餘の蛋白質を含む。麥をよく洗ひ、その乾燥の度によつて多少水加減をなし、普通の飯の樣に炊き、出來上つた時胡麻鹽をかけて食す。

（注意）乾燥麥は割合に粘り氣あり麥ばかりでも食べられます。若し尚ほ粘り氣を望めば馬鈴薯三四個生のをおろして用ひても良いのであります。

（二）芋入れ麥飯

甘藷	百五十匁
麥	二合八勺餘
鹽	一匁半

右の量にて白米三合五勺に相當する溫量と九匁八分餘の蛋白質を含む。麥は普通のように洗ひ、甘藷は皮を剝きて三分角に切り、麥と混せ合せ、鹽を入れて一緒に炊く。

（注意）芋は何芋にても良ろし、里芋は粘り氣多き故麥とよく混ざり結構であります。

（三）五目麥飯

麥	二合三勺餘
油揚	一枚
甘藷	百五十匁
馬鈴薯	三十匁
茶	二匁
鹽	一匁半

右の量にて白米三合五勺に相當する溫量と十一匁七分餘の蛋白質を含む。麥は普通のように洗ひ、油揚は纖切、甘藷は三分角切りにして普通の水加減より多少水を多くして仕込み置き、茶はさつと煎りて能く摺り、仕込んだ水の一部分を用ひて、全部釜又は鍋に移し、馬鈴薯の皮を剝きしを、おろし金にかけながら加へ鹽にて味をつけて炊く。

（注意）馬鈴薯は粘り氣をつけるために用ひたものであるけれども甘藷を多くせば使用せざるも可し尚ほ炊く時酒少し入れゝば光澤が出て味も美味しくなります。

（四）饂飩かけ麥飯

乾饂飩	半把
麥	二合三勺弱
油揚	一枚
葱	一本

片栗粉　五匁
生姜　十匁
醤油　三勺
鹽　適宜
煮干　適宜

右の量にて白米三合五勺に相當する溫量と十八匁餘の蛋白質を含む。普通の麥飯を炊き、饂飩を茹でて水氣を去り麥飯にかけ、油揚は纎切として下煮をし、細く切つた葱と油揚を火からおろし際に入れてザット煮、饂飩の上に載せ、その煮汁に片栗粉を水溶きして入れ薄餡を作り、全體の上にかけて溫きうちに食べる、生姜は適當にふりかけて、良ろし。

（五）粟入れ麥飯

粟　一合
麥　二合三勺弱
甘藷　百匁
馬鈴薯　三十匁
鹽　一匁

右の量にて白米三合五勺に相當する溫量と十匁の蛋白質を含む。粟及び麥をよく洗ひ、普通の水加減より一割位多くして釜又は鍋に仕込み、甘藷は五分位の角に切つて入れ、馬鈴薯は皮を剝き生にておろし金にかけ摺りつゝ入れて、鹽で味をつけて炊く。

（注意）馬鈴薯を生で用ひたのは粟と麥に粘り氣をつけるため故、摺りおろしの際にその汁を捨てぬ様にすべし。

（六）芋麵

甘藷　百匁
メリケン粉　九十四匁弱
鹽　少量

右の量にて白米三合五勺に相當する溫量と十一匁半餘の蛋白質を含む。甘藷をおろし金にて摺りおろしそれにメリケン粉を加へてよく煉り混せ、普通の麪の如くに伸して充分よくつなぎの出た時、纎に切り熱湯にて茹で、澄し汁の中に入れ葱及び大根おろしを添へて食べます。

（注意）甘藷とメリケン粉は、成る可くよく丁寧に打ち混ぜる事が肝要であります。

（七）馬鈴薯麵麭

馬鈴薯	百匁
メリケン粉	九十五匁
鹽	適宜
ふかし麵麭種	二匁
砂糖	二十匁

右の量にて白米三合五勺に相當する溫量と十二匁弱の蛋白質を含む。馬鈴薯は茹でゝ皮を剝き、裏漉にかけてメリケン粉を加へ鹽、砂糖を入れて味をつけ、其の中に麵麭種を入れ、好む形に作つて蒸籠の中で十二三分間蒸す。

（八）手打饂飩の味噌煮

メリケン粉	七十匁
豚の小間切	三十匁
味噌	三十匁
葱	一本
鹽	適宜

右の量にて白米三合五勺に相當する溫量と十四匁餘の蛋白質を含む。鹽水でメリケン粉を練り、よく打ち伸す事數回充分つなぎのつきし時纖に切り、熱湯にて茹であげ豚肉は水から入れて約三四十分間炊き、味噌を加へて一度煮立て、其中に手打饂飩を入れて煮、溫きうちに食べます。

（注意）藥味には葱、大根おろしを添へ、つなぎのために山芋少し用ひれば一層よく、又蕎麥粉を用ひて蕎麥とするも可。

（九）甘藷入れ蕎麥練り

蕎麥粉	七十三匁
甘藷	百五十匁
海苔	適宜
鹽	適宜

右の量にて白米三合五勺に相當する溫量と十一匁餘の蛋白質を含む。甘藷の皮を剝き、水を多くして煮る、芋の充分軟かくなりし時つぶし、其中に鹽を

入れ蕎麥粉を少しづゝ入れてよく練る、充分練れたれば各自の好みに任せ砂糖、醬油又は黃大豆粉などつけても宜し。

（十）馬鈴薯餅

馬鈴薯　三百匁
メリケン粉　九十六匁
鹽　適宜

右の量にて白米三合五勺に相當する溫量と十五匁の蛋白質を含む。馬鈴薯を茹でゝ裏漉にかけ、メリケン粉を加へてよく混ぜ合せ、鹽を入れ適宜の大きさに形作り熱湯の中に入れて茹でる、これは好みにより黃大豆粉又は餡をつけるか、胡麻を煎りて摺り砂糖にて味をつけ、鹽、醬油を加へたものをつけてもよく、又煮出汁を作り雜煮の樣にして食すもよし、取り合せには葱、大根おろしを添へる。

（十一）芋入れ稗飯

稗　四合五勺弱
里芋　五合
鹽　二匁
黑胡麻　適宜

右の量にて白米三合五勺に相當する溫量と十一匁餘の蛋白質を含む。稗をよく洗ひ里芋は亂切にして混ぜ合せ水加減して鹽を入れて炊く、出來上りし時胡麻鹽をかけて食す。

（十二）黍餅

黍粉　五十匁
小豆　一合五勺餘
砂糖　二十匁
鹽　適宜

右の量にて白米三合五勺に相當する溫量と十八匁の蛋白質を含む。黍粉を水にて練り團子に作り、熱湯に入れて茹で、小豆の煮たのをつけて食す。

（注意）稗同樣諸を混ぜ入れるか、白玉粉を混ぜて餅とするもよし。

保健食獻立

（本獻立表は蛋白質及總溫量に於て、必要量以上に充分の餘裕を見て、算出したものであります）

第一例（一日三食、三人分材料）

朝

甘藍味噌汁

甘藍	二十匁
味噌	三十匁

注意　煮出しを用ひずして美味しい汁を得られます。

晝

揚豆腐の昆布巻

昆布	二十匁
揚豆腐	十五匁
豆粕	五匁
乾瓢	二匁
砂糖	五匁
酒	三匁
醤油	十匁

注意　豆粕を摺り揚豆腐と混て昆布にて巻く

夕

鯡のライスカレー

鯡	十五匁
ラード	二十匁
胡蘿蔔	三十匁
玉葱	四十匁
甘藷	五十匁
柚子	五匁
生姜	三匁
カレー粉	一匁
メリケン粉	十匁
胡麻油	四匁
鹽	三匁

注意　鯡の悪臭を抜くために柚子を用ふ。

甘藍の酢の物

甘藍	五十匁
酢	十匁
鹽	三匁
酒	三匁

砂糖　五匁
玉葱　二十匁
メリケン粉　十匁

右献立に白米一人分三合五勺を加へて用ふれば、一人當り蛋白質十九匁、温量二千五百十九、利用温量二千三百となる。

第二例（一日三食、三人分材料）

朝　殘飯利用味噌汁
飯　三十匁
メリケン粉　五匁
味噌　三十匁
煮干　一匁五分
葱　二匁
鹽　適宜

晝　鶉豆の吉野煮
鶉豆　五十匁
砂糖　十匁
醤油　十匁
片栗粉　四匁
味淋　三匁

夕　小間切肉の甘煮
豚小間切肉　三十匁
馬鈴薯　百匁
生姜　二匁
醤油　十匁
酒　三匁
砂糖　五匁

薩摩芋の梨もどき
甘藷　五十匁
酢　十匁
砂糖　五匁
味淋　十匁
水　三勺
鹽　二匁

右献立に白米一人分三合五勺を加へて用ふれば、蛋白質十八匁半温量二千五百六十七、利用温量二千

三百となる。

朝　**第三例**（一日三食、三人分材料）

胡蘿蔔摘入れ味噌汁

胡蘿蔔	三十匁
メリケン粉	五匁
胡麻油	二匁
味噌	三十匁

注意　胡麻油は胡蘿蔔とメリケン粉とをませいためる爲に用ふ。

晝　馬鈴薯の青和へ

馬鈴薯	二百匁
菠薐草	十匁
豆腐	四十匁
白胡麻	二十匁
酢	三匁
味淋	三匁
砂糖	十匁
鹽	二匁

注意　菠薐草は青味の爲に用ふ。

夕　干鱈の刺身

干鱈	三十匁
昆布	六匁
生姜	五匁
大根	三十匁
偏里設林	少量
味噌	十匁
酢	三匁
味淋	三匁

注意　昆布は調味のために用ふ。

御講汁

里芋	二十匁
揚豆腐	四匁
胡蘿蔔	五匁
小豆	十匁
片栗粉	二十五匁
醬油	十匁

注意　片栗粉は硬く練りて團子に作る。

右獻立に白米一人分三合五勺を加へて用ふれば、一人當り蛋白質十九匁溫量二千五百八十一、利用溫量二千三百となる。

外米の炊き方注意

外米は約十一二時間水に浸しおき、約三割强の水加減にて炊く、火加減は初め沸騰するまで强い火にて炊き、瓦斯なれば、沸騰せし後火の消えぬ範圍にて火をゆるめ二三分にして火を消す。薪炭の時には充分沸騰せし後全部火を取り去りてよし。

外米のみ炊く時には、外米につなぎなき故に馬鈴薯を摺りて加ふ、卽ち外米一升につき、馬鈴薯二三個、生にて摺りたるを用ふ。

惡臭を去には、外米一升に付茶五匁許り摺りて入れ、又は重曹を極く少量を水に浸す際入れおくも宜し。外米には鹽少し入れて炊く方良し。

外米を單獨に炊きて用ふる外、芋類、大豆、小豆、油揚、昆布、大根等を嗜好に應じて混飯に炊くもよろし。

花見時の衞生

千木庵

ぽつ〳〵花が綻び初めます。花見となると花にばかり氣がとられて兎角衞生の方面が閑却され勝であります。第一此頃の氣候は甚だ不安定で而も惡く底冷がする、恰も快晴で眞に花見日よりだと申しても、朝晩は薄ら寒い、殊に曇天となると意外に冷氣を覺えます。此際朝早く、小兒の身仕度をさせます時、注意を怠れば容易に感冒に罹ります。花見歸りの雨などに逢へば實に慘憺たるもので、愈〻感冒に罹る危險がありますから氣を付けねばなりません。

それから東京などでは、往復の電車であります。近頃は平日でさへ甚しい乘客で、乘込ことが容易でありません、況や花見時となれば到底老人や小兒は乘れません、大人でも生命懸です。從つて電車內の

非衛生は申す迄もありません。結核患者、黴毒患者、淋疾患者、癩病患者さへも乘込みます。是等と押合ひへし合ひして、不潔極まる吊革につかまり、無遠慮に咳嗽をかけられます。のみならず風と動搖で塵埃が煙の如く車内に渦卷きます。足を蹈まれ、著物を裂かれ、押倒されます。斯の如き狀態では衛生も何も論ずる限りでありません。

次に目的地に參りますと、これ亦電車に劣らぬ雜沓で、泥醉せる者共の不行跡は勿論、飲食物も啻に下等で法外の價を貪られるのみならず、多くは特に不消化物で、而かも大抵塵埃を被つてゐます。此の如き場合に於て花見などの出來るものでありません。花見とは名のみであります。殊に子供衆の爲めには、何れの方面から見ても有害な事ばかりであります。故に若し眞に花見をする考ならば、上野、向島、荒川堤などゝ云ふ處は避けて、花は少なくとも雜沓せぬ空氣の良い處を選び、場合に依ては一哩汽車で一二時も市外に出る方が宜しい。要するに花見と云ふ名の爲めに衛生をおろそかにしてはなりません。

會報



〇本會三月例會

本會は去三月十三日婦人修養倶樂部と合同にて午後二時より神田區一ッ橋通り共立女子職業學校に於て例會を開き左の講話及び講談ありたり。

講話　日本歴史織田毛利の交渉　文學士　中野禮四郎君

餘興　講談（義士傳）　坂本富岳君

當日出席役員左の如し。

濱尾作子　鳩山春子　長谷川仲子　岡田德子
山本多穗子　小川孝子　吉岡彌生　田村きよ子
天野多喜子　宮本槃子

〇新潟支會

新潟支會は新潟婦人協會、同市婦人教育會と合同に

て、一月二十五日新年會を新潟高等小學校に於て開催、來賓には渡邊市長、江口師範學校長及び市內各新聞記者等あり、會員は知事夫人、內務部長夫人等を始め百餘名の來會あり、高田教育會長の開會辭に次で江口師範學校長の祝詞演說あり、晝食後餘興に移り來賓及び會員等一同の遊戲、小林氏の二曲合唱、市內有志者の能狂言等あり、午後三時盛會裡に閉會したり。

○大日本婦人衛生會

收支決算報告（大正八年三月より大正九年二月に至る）

收入

一金五千參百九拾六圓七拾貳錢

內譯

一金參千參百貳拾九圓拾九錢　前年度越高
一金千百七拾八圓　會費
一金六百八拾七圓五拾錢　寄附及廣告料
一金參圓四拾錢　雜收入
一貳百參圓　預金利子

支出

一金壹千七百貳拾圓八拾六錢五厘

內譯

一金四百貳拾四圓八拾九錢　報酬
一金參圓九錢　備品費
一金六百七拾九圓七拾七錢　圖書及印刷費
一金拾貳圓拾錢　筆墨文具費
一金百拾六圓拾貳錢五厘　通信運搬費
一金貳百五拾六圓六拾參錢　集會費
一金參拾貳圓參拾錢　雜費
一金百九拾六圓　借家料

收支差引殘

一金參千六百七拾五圓八拾五錢五厘

內譯

一金參千五百圓　川崎銀行預金
一金五拾六圓四拾六錢　貯藏銀行預金
一金貳拾五圓貳錢　振替貯金
一金五拾圓　借家敷金
一金四拾四圓參拾七錢五厘　現金

○入會者

○高木鑠子氏
○長谷川仲子氏 ――
牛込區市ケ谷砂土原町一ノ二　特別會員　神田さわ子

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁　東伏見宮妃周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

理事　鳩山春子
同　岡田德子
同　山本多穗子
同　三浦敎子
評議員　入澤常子
同　濱田捨子
同　原光子
同　西外子
同　緒方悅子
同　小川孝子
同　片山龜子
同　丹波貞子
同　田村きよ子
同　中濱芳子
同　松平芳子
同　男爵夫人　古市幸子
同　近藤蕊子
同　相磯まさ子
同　菊池米子
同　宮本樂子
同　瀬川さわ子

同　長谷川仲子
同　高木鐐子
同　天野多喜子
同　羽田三緒子
同　服部繁子
同　子爵母堂　仁禮壽賀子
同　土肥多越子
同　岡山とし子
同　男爵母堂　加藤鈴子
同　吉岡彌生子
同　高橋孝子
同　男爵母堂　南部限子
同　山口貞子
同　子爵母堂　松井正子
同　小松勇子
同　男爵母堂　青山孝子
同　岸澄子
同　三宅藤子
同　守屋千代子

大正九年四月十二日印刷
大正九年四月十五日發行

東京市本鄕區駒込千駄木町五十八番地
編輯者兼發行者　莊司秋次郎

東京市本鄕區駒込林町百七十二番地
印刷者　柴山則常

東京市本鄕區駒込林町百七十二番地
印刷所　合資會社　杏林舍

東京市本鄕區駒込千駄木町五十番地
發行所　私立大日本婦人衛生會事務所
（振替東京一〇六〇〇番）

賣捌所

東京市本鄕區龍岡町　吐鳳堂
同市銀座四丁目　東海堂
同市京橋區鎗屋町　良明堂
同市本鄕區本富士町　明文館
同市同區春木町　南江堂支店
京都市寺町二條南入　若林茂一郎
東京日本橋區吳服町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本鄕區本富士町　盛春堂
名古屋市榮町六丁目　丸善書店

婦人衞生雜誌第三百五十二號　大正九年四月十五日發行